

Light Up Rotary

第2780地区
大磯ロータリークラブ



2014～2015年度RI会長
ゲイリー・C. K. ホアン

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県中郡大磯町国府本郷546大磯プリンスホテル内 TEL：0463-61-1111(木) TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：毎週木曜日 12:30～13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 守屋 紀忠

会長エレクト 片野 一雄

幹事 井上 浩吉

第2307回 例会

平成26年12月4日 (晴) No.21

■司会：大藤 勉

■点鐘：守屋 紀忠

■合唱：君が代・奉仕の理想

◇プログラム・12月11日：ゲストスピーカー小玉千織さん ・12月18日：夜間例会、年次総会

◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メークアップ	修正出席率
2307回	19(17)	9	52.94%	—	—
2305回	19(17)	12	70.59%	—	—

◇欠席者(8名) 小林、宮澤、石山、太田
斎藤(正)、片野、原、野田さん

◇メークアップ(0名)

◇ゲスト

- ・原 貫太 バングラデシュ国際協力隊代表
- ・上野 文嵩 バングラデシュ国際協力隊副代表



本日は卓話という素晴らしい機会を頂き有り難うございます。僕たちの活動を30分ではありますが精一杯お話しさせていただきますので、よろしくお願い致します(原さんより)。

- ・宮部 泰三 大磯警察署生活安全課長



して御礼申し上げます。

振り込め詐欺の被害が大変多いということで、大

磯クラブさんの協力を頂きまして、警察の隣にありまますクロネコヤマトさんと協定を結ぶことになりました。このシール(黄色で大きさは11cm x 8cm)を1万枚造って、一人暮らしの高齢者の家庭に配達する時にこのシールを貼って配達して貰い、なお且つ注意喚起して貰う事を企画しました。お金が掛かると言うことでこの度大磯クラブさんに多大なる芳志を頂きました事こと、この場を借りてお礼申し上げます。この協定式を来年1月7日か9日に大磯町長、警察署長、ロータリーの役員さんにお出で頂き、大々的に広報して行きたいと思っております。

神奈川県ではクロネコヤマトさんの他にも色々ありますが、最大手のところと連携を取って振り込め詐欺撲滅の活動をします。多分神奈川県で初めての事と思います。1月には大磯ロータリーさんの名前を大々的に押し出して参りたいと思っております。

どうぞ宜しくお願い致します。

◇大藤勉 S A A :

・テーブルの上のリングは百瀬さんから頂いたものです。

◇会長報告

守屋 紀忠会長

・先ほど大磯警察署
宮治生活安全課長か
ら話のありました振
り込め詐欺撲滅協力
支援金は理事会で5
万円を差し上げる事
になっております。



・ロータリーでは長年ポリオ・プラス=ポリオ撲滅
運動に全力を挙げていますが、新聞によると「ポリ
オの猛威、陰に銃火」、パキスタンでは内戦により
ポリオワクチンを飲ませる事が反対されているため
=タリバンのトップ、オサマ・ビン・ラディンがワ
クチンを飲ませる人たちに混じっていたC I Aメン
バーにより発見され殺戮された事からワクチン供与
者を敵の回し者と見てワクチン供与反対・阻止して
いる等=発症者が3倍の267人に膨れあがった。内
戦が終わるまで撲滅は難しいのか？。

・ガバナー月信11月号の5ページにロータリー奨学
生の高谷さんの紹介が載っていますので、読んで下
さい。。

・本日は理事会が例会後にモロキニでありますので、
理事さん、出席できる方は出席宜しくをお願いします。

◇幹事報告

井上 浩吉幹事

・年会費納入お願い

・年次総会：12月18日(木)18時~21:00

場所：大磯プリンスホテル・パティオ

・回覧：週報 小諸RC、茅ヶ崎RC

◇一言：大磯の歴史 蛸之丞

井上浩吉さん

先日こゆるぎの浜の事
をお話ししましたが、そ
の起点となる照ヶ崎海岸
=今はだいぶ磯が出まし
て、青鳩が海水を飲みに
来るというので全国的に
有名になりましたが、以
前は磯が海に沈んでおりました。地震のために大磯
は隆起をして来ました。大昔、海の底に光るもの
があると言うので漁師が引き上げたところこれが何と
金の仏像、何故そんなところに仏像がと疑問に思わ
れると思います。岩が海に沈んでいるため、それに
気づかない船が座礁してしまい、船が粉々に壊れて、
沈んでしまう。その時仏像など運んでいる船が遭難
し手、積んでいた仏像が海の底に沈み、きらきら輝
いていた。それを漁師が引き上げたところ立派な千



手観音でありました。

これを高麗寺に納めます。この漁師に国から名前
が贈られました。その名前が「蛸之丞」。現在でも
この蛸之丞の謂われを伝えているお家があります。
加藤さんと言って今でも代々蛸之丞を代々襲名して
おり、幕府から袴を着用する事を許され、7月17日、
18日の大祭の時に袴を着て刀を差して先導をする役
割を担わされております。相当格式の高い漁師さん
であったという話であります。

蛸之丞が千手観音を引き上げて、それを高麗寺に納
め今は慶覚院にあります。もうボロボロになって
見る影もない仏像です。

訂正：第2302回例会での一言=左富士の文中「たて
ま」は「立場」に、「左義長院」は「最澄院」に訂
正お願い致します。

◇委員会報告

☆スマイルボックス

笹尾 政儀さん

スマイル報告の前に
出席について一言申し
上げたい：

先ほども出席委員長
から報告がありまし
たが出席が非常に少
ない。嘆かわしいと私
は思いますっ！！



私は昨夜風呂場で転びました。そしてタイルで後
頭部を打ちました。痛いなあと思いましたが、その
まま就寝しました。今朝、目が覚めたら枕が血だら
けになっていました。もし皮膚が切れていなかったら
命が危なかったかもしれない…。それでもこう
して出席しています。

今日出席されている皆さんは別ですが、余りにも
出席率が良くない！！

私は自分の遺言としてクラブに一言申し上げたい
事があり、今準備中です！

・原千明さん：皆さまご無沙汰いたしております。
本日は卓話の機会をいただきありがとうございます。
よろしくお願いいたします。

・守屋紀忠さん：原貫太さん卓話よろしくお願いいたします。

・井上浩吉さん：原さん、上野さんようこそ、よ
ろしくお願いします。

・河本親秀さん：原貫太君、上野文嵩君ようこそ

バングラデシュのプレゼンテーション楽しみにしています。

・百瀬恵美子さん：上野さんようこそ。卓話よろしくおねがいします。宮路さんようこそいらっしゃいました。

・田中敏治さん：原さんようこそいらっしゃいました。今日のお話し楽しみにしております。宜しくお願いします。

☆河本親秀さん：

・今日ここへ来る途中先ほどの笹尾さんのお話を聞きました。遺言として一言話することがあるとの事楽しみにしております(笑)。

・第43回ロータリー研究会が11月27日、28日東京お台場のホテルにて行われ、出席しました。テーマは「ロータリーに輝きを」でした。RI会長ゲイリーC.K. ホアン氏と財団管理委員長ジョン・ケニー氏、主催者は日本のRI理事北清治氏、杉谷卓紀氏です。RI会長の挨拶や、ロータリーモーメントと題して多くのロータリアンがその輝かしい体験談を発表されました。今後クラブ活動に資したいと思えます。

・クラブ研修リーダーセミナーが12月1日に開催され出席しました。そこではRIの戦略目標「クラブのサポートと強化」、「人道的奉仕の重点化と増加」、「公共イメージと認知度の向上」とその中核をなす五つの価値観「親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ」の実践が強調されました。就中、クラブの活性化・会員増強・維持こそが大切と言う事でした。研修リーダーとして実践したいと考えます。

・ロータリーの友12月号縦組み68ページに「寝たきり老人ゼロ作戦」と題して平塚北クラブの山梨熙一郎先生が投稿されていますので、是非お読み下さい。

・今日の卓話に原千明さんの子息で、**バングラデシュ国際協力隊**(BICP)の原貫太さん、上野文嵩さん(共に早稲田大学社会学部2年生)の二人が来てくれました。現地で撮ってきた写真を映しながらの話をお聞きしたいと思います。出来れば他のクラブにもこの卓話をお薦めして上げたいと考えます。どうぞ若い人たちの頑張りをお聞き頂きたいと思えます。



☆大磯警察署へ寄付金贈呈：



宮治生活安全課長：有り難うございました。



◇ 卓 話

◆◆◆バングラデシュ国際協力隊報告◆◆◆

代 表 原 貫太さん

副代表 上野文嵩さん



原さん：本日は卓話という素晴らしい機会を設けて頂き有り難うございます。30分ではありますが、僕たちの活動、そして想い、そして19歳、20歳という若輩ながら目の当たりにしてきた世界の不条理というものを皆さんに全力でお届けしますのでどうか宜しくお願い致します。(拍手)

以下Awareness For The Child をテーマに非常に劣悪な環境下にあるストリート・チルドレンを中心にした現地の取材写真と動画(これらの写真はユーチューブやフェイスブックなどに投稿し現在までに総再生回数2000回、様々な方からコメントが来ています)をパワーポイントで映しながら熱の籠もった話がありました。その概要を記載します。

上野さん：BICPバングラデシュ国際協力隊の紹介



B : Bangladesh

I : International

C : Cooperation

P : Partners

結成日:2014年5月26日

まだ出来て間もない若い団体ですので、決まってない部分や検討中のプロジェクト

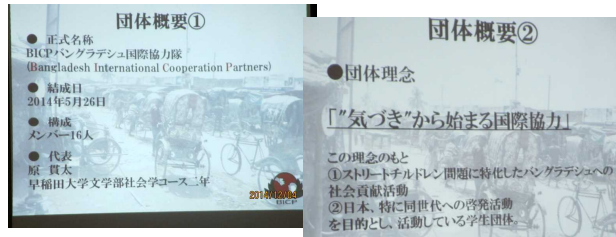
も数多くありますが、これからだと活動を続けて行きたいと思っています。

構成メンバー：16人

代 表：原 貫太

副代表：上野文嵩

団体理念：「気づき」から始まる国際協力を
合い言葉にしている。



活動内容

1. ストリート・チルドレンの問題に特化したバングラデシュへの社会貢献活動。そして日本、特に同世代への啓発活動を目的として活動する学生団体。

2. 9月3日~14日、現地で行った第1回バングラデシュ現地渡航の概要：

1) 活動方針決定のための現地情報収集

2) ニーズ調査

3) 人脈作りの3点に絞り活動

・ストリートチルドレン、物乞い、スラム、農村部に暮らす人々へのインタビュー調査。・現地の大学生42人に対するバングラデシュの貧困問題に関するアンケート調査、
・現地のNGOやグラミン銀行、学生団体訪問視察、意見交換など

非常に多岐にわたって活動しました。この中でストリートチルドレンに関して原から説明させて頂きました。

原さん：僕たちの団体はストリートチルドレンに特化して活動しています。

第1回のストリートチルドレン、物乞い調査について報告します。イメージとリアルさを感じて頂くために敢えて文字を使わないで写真を多く使用しています。物乞いについては通訳を介しインタビュー調査を行いました。

(ストリートチルドレンの写真多数)

独り立ちしている子供達とのインタビューの詳しい内容、レンタルチルドレン

(マフィアに酷使される物乞いなど)の

状況等、その苛烈な状況についての話には胸が痛みました。詳しい内容については報告書に記載されて



MAZAR(廟堂)/ダッカ

2014/12/04

います。

原さん：今度の第一回調査で感じたことは、ストリートチルドレンと言われる子供達は日々彼らなりに精一杯生きているということ。それと同時に子供らしく生きられない！！、何故生まれた国が違うだけで、ここまで子供が子供らしく生きられない現状が存在してしまうのか！！非常に憤りを感じ、改めて世界の不条理というものを感じさせられました。今後どのようにこのストリートチルドレンの問題について取り組んで行くのか、今後のプロジェクトについて：

Awareness For The Child

この問題に関してお金を寄付すること、物資を提供すること施設に入れてあげること、確かこれらは意義あることかも知れません。しかしこれは出てきた問題に他する対処療法と

と思っています。たとえば目の前の子を救うことは出来ても又新たな子供が出てきてしまう。この問題の本質／根本社会の構造にアプローチするためにはより多くの方がこの問題に気づき、目を向け、行動に移して行く事が必要。そのためには三段階が必要になります。

1. 問題に気づかせる

2. 選択肢を提供する

3. 行動に移して貰う

こうすることで、この問題に取り組んで行く人の数を増やして行こうと考えています。これこそが問題の本質／根本にアプローチする事に繋がると僕たちは考えています。

気づき：多くの人に気づいて貰う、そしてこの問題に目を向けて貰う、これが僕たちに初めに出来ることだと思います。ストリートチルドレンがダッカだけで33万人以上いる。これは確かに大きな問題です。ただ大切なのは、カテゴライズされた事実や数値じゃなくて、一人一人を個別化して捉えること、たとえばシャゴール君、彼は確かにストリートチルドレンではありますが、シャゴールという名をちゃんと持っています。そして感情があり、生活があり、元々親がいたんです。そのような当たり前に気づく事、気づいて貰うこと、これがとても大事と考えています。

それでは気づきに対して具体的に何をやるのか？毎年3月、9月に現地渡航します。来年3月2日~18日まで渡航した時にまずストリートチルドレン一人一人とのインタビューの様子を写真撮影します。その後

Awareness For The Childのプラカードを持って貰い、それを動画または写真撮影する。これをバングラデシュの人にも持って貰い撮影する。同時にベンガル語、英語でストリートチルドレンに関することを書いた紙を配布し、この問題に一層の気づきを持って貰う。又同じ事を日本でもやり、多くの人に気づいて貰う。これらの動画や写真を編集しYou-chubeやSNSフェイスブックに投稿し発信して行きます。気づきの可視化として、日本には沢山の慈善団体があります。ボランティアブームというのがあります。顕著なものとして学校の建設があります。ハード面の支援で、目に見ることが出来ます。只僕たちがやろうとしている気づきというものは見ることが出来ません。これを可視化して目に見える形にして行くと言う点で工夫を凝らしました。

1. 例えば橋を建設する、学校を建設する、このようなハード面の支援では国際機関や、政府機関、NGO等には僕たち学生は絶対敵いません。まずお金がない、知識がない、スキルがない、只気づきという面では学生だから社会人だから、プロだからと言う身分は全く関係ないと思っています。それよりも僕たち学生、力がない割にもこの問題に目を向けようとしているその姿勢を見せることで、プロがやるよりも僕たち学生が発信する事に大きな意味があるのではないかと考えています。

単純性：このプロジェクトを長期にわたって継続して行くためにとてもシンプルにしております。学校を建設するとなれば莫大なお金が必要となりますが、それらに比べるとコストも低く抑えられます。

個別性：個別化するために一人一人のストリートチャイルドにインタビューを行う。

Awareness For The Childと書いたTシャツを着て演出を加えることで、より多くの人々にアピールし、気づいて貰う。

メディアを巻き込む：第一回の渡航の際に国営放送



のインタビューを受けました。現地では僕たちがいるだけで人が沢山集まります。ストリートチルドレンと僕たちがインタビューをしていることを聞きつけて国営

テレビが駆けつけてインタビューをしてくれます。この様に現地のメディアを巻き込んでバングラデシュの全土に事活動を発信する事で、より多くの人にこの問題性に気づいて貰おうと考えています。

もちろん気づきだけではこの問題は解決しません。より多くの人たちを巻き込んで国際協力、社会貢献するためには先ほどの3つの段階が必要です。

選択肢の提供：旭山動物園に好例があります。シロクマさん、ペンギンさんがショーケースの中にいます。子供達が見てシロクマさん可愛い！、ペンギンさん可愛い！、だけで終わるのではなく、その横に「このシロクマさん、ペンギンさんが住んでいる北極／南極では近年地球温暖化の影響で氷がだんだん溶けて、彼らの住処が無くなっている。」という紙が貼ってあり、問題に気づかされます。そして「あなたが旭山動物園から家に帰った時に電気をこまめに消す、リサイクルに努める。このようなことをすることで地球温暖化と言う問題に対して貢献できますよ」と選択肢も提供しています。

問題に気づかされた人は何かしたい、何か行動を起こしたいと考えます。僕たちはこの問題に対して、「今のあなたにはこれが出来ます。と言う風に選択肢を提供し、スムーズに行動を起こして貰う。と言う風に考えています。

具体的に僕たちは何をやろうとしているか？1. 白いゴムバンドを一つ100円、現地では30タカで販売。もしくは無料で配布。このゴムバンドにはAwareness For The Childと書き、沢山の現地の人たちにつけて貰います。運動に参加していない人がゴムバンドを見て、これは何ですか？これは日本のBICPと言う学生団体がやっているプロジェクトの一つで、と話して貰う事で、こういうことをしている学生団体がいると言うことを発信して行く。

売り上げに関しては現地のNGOや学生団体に寄付する事を考えています。しかしこのプロジェクトには未完成のことが多いです。今後ミーティングを重ねて、又実践を重ねて、より良いプロジェクトにして行くようにしたいと考えています。

この世界には数え切れない問題があります。紛争、貧困、飢餓、差別、格差等。この問題に対して僕たちが初めにやるべきは気づくことから始まると思います。僕達は気づきから始まる国際協力学生団体であると理念に謳っております。

10日間の全身全霊を尽くしたプロジェクトの記録を報告書にまとめました。是非皆様にお読み頂きたいと思います。

それから僕たちの活動は全て会費=自分たちの小遣いで成り立っております。もちろん僕たちのプロジェクトは単純性を追求してコストが掛からぬようにしていますが、お金があればより多くの選択肢を選

ぶことが出来ます。もし私たちの動きに賛同頂けるならばご寄付をお願いしたいと思います。

ご静聴有り難うございました。



質

問；

何故バングラデシュを選ばれたのですか？

答：原さん

私がこの活動に目を向けた**原点はフィリピン**です。日本の国際NGOのスタディ・ツアーでフィリピンに行きました。現地滞在は6日間でした。5日目までは非常に楽しんでいました。現地の子供達と一杯写真を撮って、遊んで…。正直ストリートチルドレンというのはもっと怖いものと思っていました。違うじゃん！、笑っているじゃん！。思っていることと違うな、ボランティアしに行った積もりが僕が元気を貰ったな、でも日本に帰ったら彼らに対して何かやろう…。要するに現地活動ではすごく楽しんでいました。

6日目、空港に帰る車の中で衝撃的な光景を見ました。3車線の空港に向かう、車がバンバン通っている道を車と車の間をぼろぼろの服を着た7歳位の女の子が、1歳くらいの全裸の男の子を抱えて車のドアを叩きながらお金を下さいと言いながら物乞いをしていました。その時本当に衝撃が走って「えっ」と思ったんです！。

今までさんざん色んな施設を回って、色んなところにボランティアして、まだここにもいるのか、しかも今まで見てきたものよりも酷い！と思って…。本当に何で生まれた国が違うだけでこんなにも差が生まれてしまうのだろうか？衝撃を覚えて、恥ずかしながら僕は空港のトイレで大泣きしました。

この問題に対して日本に帰っても絶対僕が出来るだけの事をやろう、本気でやれることをやろうと決意して帰ってきました。

日本の団体の中でフィリピンに関わっている団体、

学生が多くあります。それで、より困っている国に目を向けるべきではないか…と思って初めはアフリカの最貧国だとか紛争国とかももっとも困っている国に目を向けようと思いました。ただ学生団体を立ち上げようとした時3人で立ち上げようとしたんですけど、彼らは紛争国に行った経験がなく、たじろいたんですね。いきなりアフリカ、紛争国と飛び抜けるのではなく、学生という域は超えないで、又彼らだけでなく、より多くの人たちを巻き込んで行きたいと、まずはアジアに位置づけ、アジアの中で一番困っている国は何処か？と言うことに焦点を置きました。

それでアジアの最貧国バングラデシュに目を向け、自分で図書館に行って文献を調べる中、首都ダッカだけでもストリートチルドレンが33万人いるという事実に衝撃を受けて、まず現地に足を運ぼうという事になりました。この時点では、もしバングラデシュへ行って、何も問題なければ他の国を選ぼうと考えていましたが、現地へ行って、ポリオなのにも拘わらず物乞いさせられている。12歳であるにも拘わらず、1日100円の収入でやりくりしている子供達を見て、この問題は決してどこかの世界の問題ではなくて学生団体を立ち上げ、バングラデシュにフォーカスしてきた僕たちの問題である。自分の生活の延長上にある問題であると初めて感じる事が出来ました。だから目の前に存在する問題から目をそらさずに、バングラデシュという国に今の自分たちの出来ることをやると言う風に決意してバングラデシュを選びました。

以上

編集者感想：

1985年フィリピンのマニラにロータリーセンター＝医療センター、職業訓練所、図書館を設置する世界社会奉仕プロジェクト支援のための調査に行った時、原さんと全く同じ子供の物乞いの光景を見ました。他に高さ10数メートルもあるゴミの山＝スモキーマウンテンが点在し、トタン屋根だけのバラックに蹲る老人達の打ちひしがれた姿を思い出します。このフィリピン訪問が私のロータリーの国際奉仕に献身した原点になっており、原貫太さんの思いに大いに共感するものです。

しかし、フィリピンの状況は今も殆ど改善されていないんだなと少し悲しい気もします。

(クラブでB I C P第一回現地渡航報告書

20冊、@1,000購入)